

ます
枅

枅は人が古くから用いてきた、「はかる」ための道具です。日本の枅の単位は中国を起源とする石、斗、升、合、勺が用いられ、日本独自の尺貫法により定められていました。「枅形」という言葉があるように、枅といえば四角形を思い浮かべますが、円筒形の枅も明治になってから認められて使われました。1921年(大正10)にメートル法が日本の正式な単位として決められたことで、徐々に枅の利用は減っていきましたが、私たちの暮らしの中で今も、慣れ親しんだ単位として、一合(約180cc)、一升(約1.8ℓ)など、お米やお酒などをはかる時に枅を使うことがあります。

さて、枅は「ます」という名前から、量をふやす「増す」や「益す」に通じるとされ、古くから「はかる道具」としてだけでなく、「縁起物」(開運や福を招くもの)としても扱われ、様々なお祝い事や行事などの場面でも活躍しています。節分では、悪疫を祓う福豆(炒った大豆)を入れる容器の「福枅」として使われ、人々に「ますます福がもたらされる」ことを願って使われています。また、「ますますの、ご発展！」などと言って、和傘の上で枅を回す祝福芸も見られます。

枅は日本人のくらしや文化の中で、現在もまだまだ活躍している道具です。



枅 [左上：一斗枅(筒形)、右上：一斗枅(方形)、左下：福枅(2)、右下：五合枅(方形)] / 岡崎むかし館蔵